

# 石仏あれこれ

## シリーズA 石仏を訪ねる

### A6 散見 1976

森隆一



(にいがた観光ナビ より)

## A6. 散見 1976

前章に続き、1976 に撮影したものを取り上げる。時期的には、慈眼堂の前後に撮ったものである。

### 山口・萩 1976

山口大学で行われたシンポジウムの際に撮影したものである。



左の写真は、アルバムでは山口サビエル記念聖堂の焼失前の写真を挟んで、瑠璃光寺と思われる写真の間になっている。これからは、湯田温泉から山口サビエル記念聖堂の間の寺院ということになるが、全く記憶にない。

右の写真は萩の旧市街の城近くで撮ったようだが、これも全く記憶にない。

## 醍醐寺 1976

醍醐寺に写真を撮りに行ったことは覚えている。思い出したことは、まず、随心院に行き、そこから歩いて行ったような気がする。随心院へは、三条京阪からバスでいった可能性が高い。

石仏を撮ったことは記憶になく、下の 2 枚の写真を撮った経緯も全く浮かんでこない。Google Map からは、左の写真は金堂の裏にある護摩道場の前に置かれている役行者像である。

右の写真は、アルバムの前後の写真から、奥の院と思われる開山堂・五大堂への登山口である成身院 女人堂周辺で撮ったものと思われるが、位置は特定できていない。



## 鷲峰山金胎寺 1976

関西確率論セミナーのハイキングで訪れた。この写真も撮影の場所や経緯は全く記憶にない。

写真は優婆塞・優婆夷のようである。



コトバンク「世界大百科事典 第2版「優婆塞・優婆夷」の解説」では  
優婆塞は男性の在家信者，優婆夷は女性の在家信者のこと。五戒を守り，出家に  
近侍して世話をする。もともと在俗男女の仏教信者のことであるが，日本，とくに  
奈良時代には民間の宗教者を指していた。半僧半俗的な生活形態をとり，山林にあ  
って修行し，呪術にたけていた。  
と書かれている。

## 佐渡 1976

水上温泉でのセミナーの後、佐渡に出かけた。両津で1泊し、賽の河原という名に引かれ、バスで海岸沿いを終点まで北上し、歩いて賽の河原に着いた。

### 賽の河原



表紙の写真とほぼ同じ所で撮ったものである。写真のようにやや大きめの地蔵の回りに小さい地蔵や積み石が並べられていた。‘苦勞してきたわりには’と思った。賽の河原は水子の供養のためと読んだ気がする。この頃見たの‘賽の河原’はこのようなものであった。

この後、食堂が見つからず、小一時間歩いて、恐らく、願の集落辺り



でやっと昼食にありついた。イカ定食しかなくがっかりした記憶がある。

なお、表紙の写真は‘にいがた観光ナビ’より引用した現在の写真である。石仏の数も増え、大型のものも写っている。

## 宿根木

小木に宿泊した翌日の午前中、宿根木の岩屋洞窟(岩屋山石窟)に赴いた。洞窟らしきものは見つかったが、入り口は封鎖され、草ぼうぼうで、内部も見ることができなかった。



しばらくはバス停の付近の集落をうろついたことは覚えているが、そのあと、バスを待ったのか、歩いて小木まで帰ったのか記憶にない。後者であった気がするこの過程のどこかで次の写真を撮ったはずであるが、路傍か寺院で撮ったのかなど全く思い出せない。





## 小比叡 蓮華峰寺

小木に戻った後、蓮華峰寺に向かった。左は境内の地図で、石仏の写真は、下の左のもののみである。かなり立派な不動明王であるが、撮影の位置等は記憶にない。



## あとがき

石仏写真を撮ることを目標に加えたのは、坂本 慈眼堂・秩父 金昌寺・一乗谷 西山光照寺跡を訪れたあとである。時間がかかったのは、石仏に関する知識が乏しく、撮り続けていくことが出来るかどうか不安があったことである。調べていくうちに、かなりのものがあることがわかり、踏み切ることになった。

ここで取り挙げたものは、坂本 慈眼堂の前後、秩父 金昌寺の前に撮影したものである。この頃は、始めて訪れる所も多く、普通の観光も同時に行っていた。いわば、二兎を追う状況であった。車の運転にも慣れた1978年以降に、石仏がメインになった。